

チューニングパーツの
しくみを学ぼう

入門×か講座

ホイールの巻



チューニングパーツとしてもドレスアップパーティとしても親しまれるホイール。たくさんの中から、自分に合ったホイールを選ぶための知識を身につけていただきたい

ですね。その選び方によって、おなじサイズでも速そうに見えたり、ワルそうに見えたりとまったくクルマのイメージを変えるものですからね。当社のホイールはもちろん性能重視のチューニング型が中心、近年はその技術が認められてF1にもホイールを供給させていただいているんですよ。

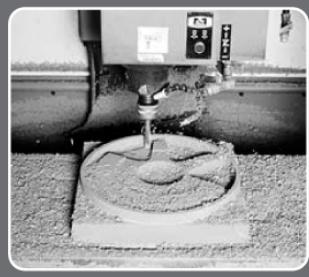
まずは腕試し!
○Xで答えてみてね!!
(解答はいちばん最後にあるよ)

講師
レイズ
鬼追さん



- Q1 おなじ形状のホイールなら铸造より鍛造のほうが強い
- Q2 マグネシウムはアルミより比重が軽く比強度も高い
- Q3 穴数とPCDがおなじなら、どのホイールでも装着できる
- Q4 軽量なホイールを履くと加速性能が向上する
- Q5 JWLマークの入っていないアルミホイールは車検に通らない

「ホイールとは？」



ホイールとは、説明するまでもなくタイヤをクルマに装着するためのパーツのこと。ドレスアップ用品としても一般的なことから、さまざまデザインやサイズのホイールが発売されているよね。

また、ホイールはスポーツ走行時の性能をあげるチューニングパーツとしても大きな効果が期待できる。

クルマの軽量化が、より早く走るために有効なのは常識だけれど、特にクルマの運動性能を左右すると言われている部分だ。特に路面追従性がよくなり、サスペンションの動きがスマーズになり、乗り心地も向上するよ。それに、重たいホイールは回転時の慣性力が大きいため、駆動ロスの低減や加速レスポンスの向上にも貢献。重たいホイールは、直進性能が安定する反面、加減速や旋回時の性能は低いからね。さらに、軽量化と慣性モーメントの減少につながらり、

燃費アップも期待できるんだ。

ところで、汎用性の高いホイールではあるけれど、車種によってボルト穴の数やPCDが何種類もあつたり、径やオフセット

なども車両形状の制約がある。

というわけで、選ぶ際にはデザイナーや名柄だけでなく、自分のクルマに合う製品があるかを考慮する必要があるよ。

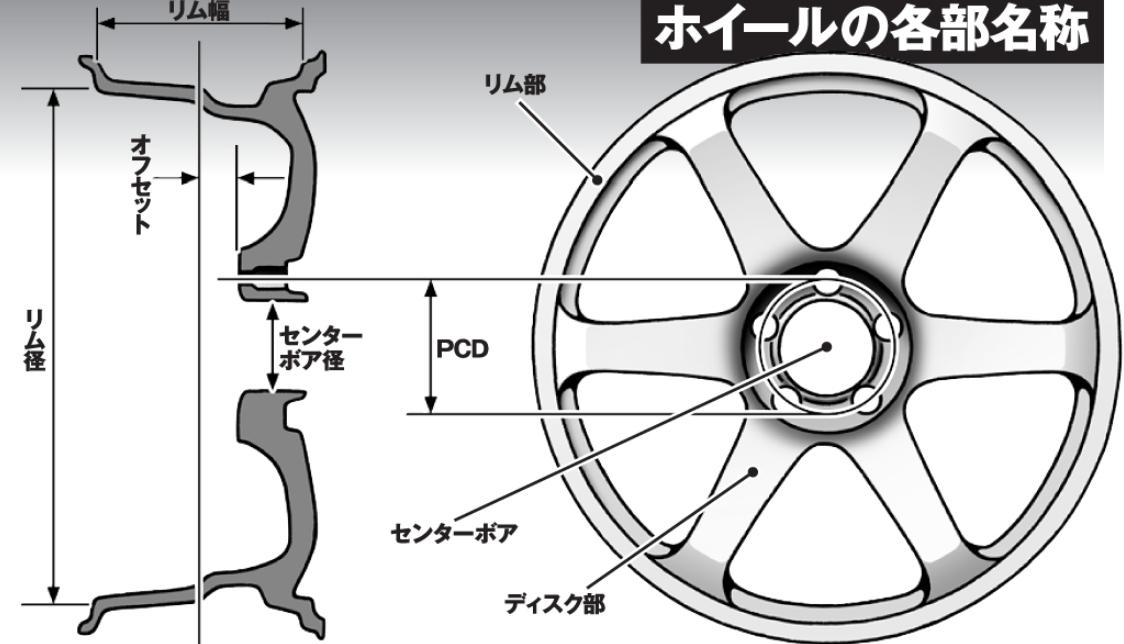
アルミホイールは、まず素材を成型するための製造方法のちがいによって大きく、『铸造』と『鍛造』のふたつにわけられる。金型などに高熱で溶かしたアルミを流し込んで形を作るものもあるよ。

アルミホイールは、まず素材を成型するための製造方法のちがいによって大きく、『铸造』と『鍛造』のふたつにわけられる。

アルミホイールは、まず素材を成型するための製造方法のちがいによって大きく、『铸造』と『鍛造』のふたつにわけられる。

ホイール交換がはじめにおこなわれたのは、レース業界初期の頃に主流だったのは、仕様にあわせてオフセットやリム幅をカスタムして組み替える「スリップオン」だった。その後、レギュレーションなどから決められるようになると仕様変更の頻度も減り、軽量化などへと人気がうつづいて

ホイールの各部名称



ホイールの種類と構造

純正ホイールに多く採用されていたのが、『でっちゃん』などと呼ばれるスチール(鉄)製のホイール。コストが安いのがメリットだけれど、現在ではグレードの低いクルマや商用車、トラックなど、装着されるクルマは減ってきた。

そして、アフターパーツとして発売されているホイールの大半を占めるのがアルミニウムホイールだ。最近では新車からメーカーのオプションや純正としてアルミニウールが装着されているクルマのほうが多いくらいだね。

アルミニウムは比重が鉄の約1/3と軽量で、加工性にもすぐれており、スチールホイールよりも軽くてカッコいいものを作ることが可能。また、熱伝導率が高いので、ブレーキやタイヤの熱を放出しやすいというメリットもあるよ。

アルミニウムホイールは、まず素材

を成型するための製造方法のちがいによって大きく、『铸造』と



円盤のように平面な「ディッシュ」と、細かいスポークが放射線状に配置された「フイン」、自転車のホイールのように複数のスポークが重なり合った「ワイヤースポーク」、スポークが螺旋や渦巻きのようなデザインの「スペアラル」が基本となるよ。

イラスト：加藤浩哉

入門必講座

ホイールの巻

素材としてレースなどで使われるようになったのがマグネシウムホイール。比重がアルミニウムよりもさりに軽いのがメリットだ。

ただし、アルミニウムホイールよりも軽くなる反面、金属自体の価格も高いため製品化されているのはごくわずかというのが現実だ。また、「マグネシウム合金は、アルミニウムよりも腐食しやすい」とテメリット。短期間で装着部品を入れ替える場合、腐食性はあまり問われないし、価格よりも性能が優先するということで、F1やGTマシンなどトップカテゴリーのレースでは、性能面で優れるマグネシウムホイールが使われているよ。